

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0190400903, 株式会社 健康会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400903-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR八軒駅から徒歩10分以内の好立地に加えて、隣にはコンビニがあり、近所にはドラッグストアや商店など生活環境が充実している...

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市西区八軒の市街地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。JR八軒駅から徒歩圏内にあり、近隣にコンビニがあり利便性のよい地区である...

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Achievement Status (radio buttons). Rows 56-62 are visible.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、事務所に掲示している。ユニット会議時に確認し、職員と共有している。何か迷うことがあるときには、会議時に理念に基づいて行えているのか、職員と話し合う機会を設けている。	会社や事業所、事業部の理念を玄関や事務所内に掲示している。また、月1回のユニット会議で具体的なケアについて検討する際に、理念を振り返ることで、事業所の方向性の再確認を行うなどして共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行し、積極的に外の掃除やごみ拾いの時に地域の方に挨拶を心がけている。コロナで閉鎖的になっているため、これからも継続していく。	コロナが5類になったことで地域との交流を再開している。地域住民への挨拶をはじめ、町内のそば打ち職人の方に来ていただき、手打ちそばを提供するなどして、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍が長かった為、地域の方との交流がまだ思うように行えていないが、家族や近隣の方へ広報誌をお渡しし、つながりを深めて行っている初期段階。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類移行後、地域包括や学生、内部職員と行っている。都合がつかない方へは書面で通知している。	コロナが5類になったことで、対面での開催をし、町内会長や地域包括支援センターの担当者、時には実習生も参加し状況報告をしている。都合がつかない参加者には、書面通知して意見を募り、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居、空室状況を毎月行っている。随時、事故報告を行っている。何か疑問を感じた時には電話で連絡を取っている。	主に地域包括支援センターの担当者と連絡し、事業所の空き情報や入居された方の情報を報告している。また、札幌市へは事故報告をメールにて送信し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っておらず、3か月に1度身体拘束適正化委員会を開いて、職員で勉強会報告書の提出をしている。	3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、委員会の中でセンサーや鈴の使用についての現状のケアについての検討している。また、内部研修を年2回定期開催し、新採用職員には入職時に研修実施することで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っている。職員の理解を深めるために事例検討をし、何がいけないのか、原因になるものはないのか十分に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行っている。 今後は外部の研修も参加し、より理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お手紙やお電話にてご家族様の要望を頂いている。面会ができるようになってからは、直接お話しする機会も増えている。	毎月発行のホーム便りと写真付きの手紙を添えて家族へ送付し状況報告している。また、直接面会が再開され、その際に意見を聞き、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員と話す機会を設けている。日常業務やユニット会議で職員の意見を聞き、業務に活かせる意見は取り入れている。	日々の業務の中で、意見を聞き取ったり、月に1回ユニット会議を開催している。また、職員面談を毎月15分程度行うことで、職員の意見や提案する場を設け、迅速な改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションの向上に繋がるように日々コミュニケーションをとり改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は進んで受けてもらっている。個人の力量など、職員一人ひとりに合わせ、日々のケア時にアドバイスもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者はリーダー研修を受講し、横のつながりを持つことができている。他の活動で良いことなどは会議の時に職員へ伝達している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を行っている。本人の訴えに寄り添いながら、同時にご家族様の思いもお聞きするようにし、より安心して暮らしていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話で必ずお聞きしている。1度ではなく、何度かお話しする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談、アセスメントを通して必要な支援が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを一緒に行うことや、生活歴を考慮し関係構築に努めている。職員同士での情報共有も大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月情報氏とお手紙、お電話で様子をお伝えするとともにご協力もお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会や、ご家族様と散歩や外食をしていただいている。お手紙を投函したり、お電話でお話されている。	コロナが5類になったことで、家族だけではなく友人との面会も再開している。また、家族と電話で話しをしたり、手紙のやり取りをするなどして、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	易怒性があり、どうしても折り合いがつかない入居者様同士には職員が間に入ること、席順を考慮するなどしている。レクリエーション時は協力しあう様子もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もケアの相談や新規入居者様を紹介頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、ご本人の要望を把握する様に努めている。	日々の生活の中で一人ひとりの思いや意向を聞き取り、把握に努めている。意思疎通が困難な方は、家族からこれまでの生活状況を確認し、表情や仕草などから汲み取り、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、ご本人、ご家族様からの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、ご本人の現状を把握する様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から、要望を把握し、毎月のユニット会議にてサービス担当者会議を実施し、職員全員で情報共有している。3か月毎に再アセスメントを行い、計画書の見直し、現状に合った介護計画を立案している。	居室担当者が毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議にて情報共有している。また、3ヶ月毎にアセスメントを行い、計画作成者が計画書を作成するなどして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の活用や、毎日の送り、ケア会議での意見交換をしている。職員同士での情報共有とともに、計画作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望に合わせ柔軟に対応している。本人の様子や言動をご家族様に電話や手紙で伝え、家族様の意向は管理者より職員へ共有をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望の方には、訪問マッサージを取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ協力医療機関であるかかりつけ医を選定していただいているが、希望に応じてかかりつけ医を継続して頂けることを説明している。他受診の対応は状況に応じて職員が対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医による月2回の訪問診療と、週1回の訪問看護により、24時間対応可能となっている。希望に応じてかかりつけ医は継続することができ、家族に協力を得ながら、必要に応じて対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から情報共有している。何かあれば、すぐに電話し指示を仰げる状況であり、週1回のナースラウンドもあり、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と情報共有を行い状況を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時にリビングウィルに関して家族へ説明し同意を得ている。また重度化したときは、改めて家族の意向を確認し、再度かかりつけ医を中心に打合せを行うなどして、チームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方について、入所契約時に家族へ説明し同意を得ている。重度化した際は、医師から病状説明をし、改めて家族の意向を確認するなどして、チームで支援に取り組んでいる。また、新しい職員が看取りの対応が不安にならないよう勉強会も定期的に開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。事務所に手順を掲示し誰でも対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の避難訓練を実施、夜間想定を含め年2回以上定期的に行っている。備品、備蓄を整備して災害対策を行っている。	火災や地震、水害に関する避難訓練を、日中・夜間想定で年2回以上行っている。また、BCPの作成も行い、担当者が備蓄や備品の管理をして、現状に即した災害対策を行っている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、家族に契約時に個人情報保護に関する説明し同意を得ている。また、会社全体で接客研修を開催しており、言葉使いなど正しく使えるように職員間でも声掛けし注意して対応している。	会社全体で行っている接客研修は事業所内でも実施している。また、新採用職員が入職時に研修を開催し、事業所全体が職員同士が注意し合える環境があり、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人の希望に合わせて強制することはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的訪問理美容。ご本人が望まれた場合はご本人希望の化粧品を揃えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からの聞き取りで好みに応じた食事を提供するように努めたり、可能な方には下膳や下準備テーブル拭きなど手伝ってもらい、可能な範囲で利用者一人ひとりの力を活かせるよう努めている。	食材は、外部委託だがホームで調理をして提供している。誕生日や『八軒中央喫茶店』などのイベントの際は、利用者の希望を聞き取り、好みに応じた食事を提供したり、食器拭きなど可能な方に手伝ってもらうなど、一人ひとりの力を活かせるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、不足しているときは声掛けや形態工夫で摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行えるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録を活用し、排泄パターンを把握して、職員間で共有している。一人ひとりに合わせて声掛け誘導を行い、本人本位での支援を行うように工夫している。	ご自身でトイレへ行かれている方以外は、介護ソフトの記録を活用し、排泄パターンを把握している。個々の排泄パターンを職員で情報共有し、声掛けするなどして、本人本位での支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談し排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の希望に合わせて楽しんでいただけるよう努めている。	曜日は日曜日以外での入浴となっているが、その方の希望やタイミングによって臨機応変に対応している。また、入浴剤を選んでもらい、楽しんでいただくなどして、楽しめるように工夫し、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のための室温、照明の調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を把握し変更等は必ず情報共有し、迅速に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の情報を参考にしながら、日々のケアで気がついたことを職員間で共有し、一人ひとりに合わせた楽しみなど支援するように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類へ移行し、少しずつ外出レクを増やしている。近隣の公園やお花を見るなど行っている。今後は買い物レクや外での外食も検討している。	コロナが5類になったことで、近くの公園やドライブへ行くなど、外出する機会を少しずつ増やしている。また、家族との外出及び外泊も可能となっており、家族と協力しながら出かけられるように促し支援している。	感染症の影響により買い物や外食などの外出は消極的になっているため、本人や家族の希望に沿った外出支援ができるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は職員が行い、買い物は代行している。今後は隣のコンビニエンスストアで本人の希望に合わせて買い物ができるように支援していくよう検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は職員が投函している。電話は都度対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で明るくを意識しており、定期的に換気をしている。室温、湿度も管理している。季節に合わせた装飾や行事の写真を掲示している	共用空間は、採光により明るく、清潔感があり定期的な換気を行うことで、室温や湿度の管理も行っている。リビングの壁やユニットの通路には、行事の写真や利用者と共に作成した作品を飾るなど、季節に合わせて掲示しており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスを用意し、自由に使用頂いている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓を職員が手伝いながらしており使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、利用者それぞれが居心地よく過ごせるようにしている。	居室は、備え付けでベッドとクローゼットがあり、ベッドは身体機能に応じてホームでレンタルしている。利用者ごとに使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、それぞれが居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や案内を用意している。安心して一人で行動できるよう配慮している。		